



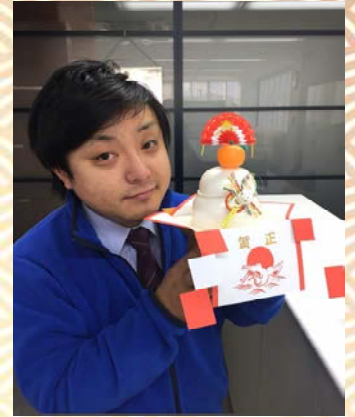
明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

船越税理士事務所一同



### 「新年一発目」和田

あけましておめでとうございます。お正月は皆様いかがお過ごしになられたでしょうか？私はこれといってなく、ひたすらみかんを食べてました。段ボール一箱は食べました。すみません。ちょっと話を大きくしすぎました。実際は半分ぐらいです。それなのに新年から風邪をひいてしまって...みかんはビタミンC豊富で風邪予防になるって昔から言いませんでしたっけ。今年は酉年です。風邪に負けてる場合ではありません。新年から元気出してがんばらないと！！今年は仕事もプライベートも丁寧にトリ組んでケッコーな年にしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

### 【世界の道は早稲田に通ず：大隈重信】

明治の初頭、政治と教育に情熱を捧げ日本の近代化を推進した大隈重信は1838年、佐賀藩の武士の家に生まれました。幼い頃に父が病死したため母の手で育てられた重信は、佐賀藩の藩校・弘道館に学び、その後に宣教師であるフルベッキから英学を学びます。30歳の頃、日本でのキリスト教徒の扱いをめぐるイギリス公使と論争、その交渉手腕が高く評価されました。その後、政府に入ると財政再建や富国強兵に取り組み、通貨単位「円」の制定や鉄道敷設を実現しました。そして、政治に並んで注力したのが教育です。政府を追われ下野した後に、44歳で東京専門学校、現在の早稲田大学を設立します。この頃、立憲改進黨を立ち上げていた重信は、日本の将来を担う若者の育成も重要だと考えていたのです。このとき掲げた教育理念は「学問の独立」でした。当時、学問といえば西洋のそれを指していた状況を大変憂慮していたといいます。「一国独立の基礎は自主独立の精神にあふれた国民の形式にある」として学問の独立を目指すとともに「権力の下に支配されず、独立して意の向かうところへ赴くことが必要である」とも考えていました。「若い人は高尚なる理想をもたなければならぬ」「その理想を行うという勇気がなければならぬ」という重信の言葉は、現代の若者にはどのように響くのでしょうか。



## 今を生きる 先人の言葉

生活と人生とは違う

日本の小説家である遠藤周作の言葉。ただいたずらに時間をやり過ごすのではなく、あるひとつの目的に向けて日々を積み重ねる充実した人生を歩みたいものだ。

# 今さら聞けない 経済用語

## 【今月の教えてキーワード：チャプターイレブン】

アメリカにおける企業の経営破綻手続きを定めた法律のこと。経営再建型の倒産手続きとなる。この法律にならって、日本では2000年に民事再生法が施行された。チャプターイレブンが適用されると、経営破綻した企業への債権回収や訴訟は一旦停止されるため経営再建に集中できる。ゼネラルモーターズやアメリカン航空などが適用を申請したことがある。日本の破産と同じ清算型の破綻手続きの法律にチャプターセブンがある。



## 365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

### 今月の商売のヒント：【凧(たこ)は風に向かって舞い上がる】

このお正月はぎっくり腰で寝たきりだったという知人に「新年早々、災難だったね」と声をかけたところ、「お正月で助かったよ。かえってゆっくり休めたしね」と笑顔を向けられました。気の毒だと思ったのはこちらの勝手な思い込みで、本人はぎっくり腰で動けない状況を前向きにとらえ、逆に楽しんでいたようです。

考えてみればこの知人は、何か問題が起こったときにいつでも「かえってよかったよ」「逆に楽しいよ」「むしろ大歓迎だよ」と笑って事に当たっています。

かたわらから垣間見える状況が決して楽そうではないときも、あからさまに大変さをかもし出したり不安がったりすることなく、そのときできることを黙々とやっている、そんな印象です。

「いつもどんと構えているねえ」そう感心すると、「失敗した経験の量が半端じゃないからね」と。

たとえ成功者と同じことをしても、表面を真似ただけでは同じように成功できるとは限りません。成功した人のバックボーンには、成功に匹敵するだけの失敗の数々が隠れていることが容易に想像できるからです。判断ひとつにしても、わずかな経験でする判断と豊富な失敗に基づいた判断が同じはずはありません。



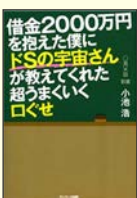
シャネルの生みの親であるココ・シャネルの名言に「人生が分かるのは、逆境のときよ」があります。ウォルト・ディズニーも「逆境の中で咲く花は、どの花よりも貴重で美しい」と言いました。大成功を収めた彼らもやはり「逆境」という環境を前向きにとらえて果敢にチャレンジしていったのでしょう。

お正月のテレビ番組で、いまだき珍しい凧上げの光景を見ました。凧は風に向かっていくからこそ高く上がります。風に流されては上がっていきません。

澄み渡った青空に高く高く舞い上がる凧を見ながら、逆境こそ人を強くさせる環境だと改めて思う新年でした。事の成るは逆境のとき。逆境を乗り越えた分だけ自分も商売も成長していくのでしょうか。

トナリの

## 本棚



【借金 2000 万円を抱えた僕にDSの宇宙さんが教えてくれた超うまくいく口ぐせ】

「どうせ無理」「ダメ」と口にすると、宇宙は実現しないようにプログラムするそうです。願いをうまくオーダーする方法が面白おかしく、かつ圧倒的な説得力で書かれた指南書です。

## 船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町 1-1-1 中川ビル 3 階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: [info@f-office301.com](mailto:info@f-office301.com)

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎

## メール道：【メールか、電話か、それが問題だ！】

メールでは長くなりそうなこみ入った用件は事細かく書いて送るより、要点を整理して電話で連絡する方が早いこともあります。相手に伝わるように書いて説明するのは時間を要します。時間を割き、言葉を選んで書いたのに相手にうまく伝わらず、こみ入った用件がさらに複雑になってしまったのでは元も子もありません。相手がすんなり理解できるように「言葉を尽くす」ことは大切ですが、こみ入った用件を的確かつ迅速に説明するために「書く」以外の手段があることも検討してみましょう。例えば最初に資料をメールで送信してから、それをもとに電話で説明する。メールでは説明に時間がかかりそうな内容は先に電話で概要を伝え、詳細はメールで補足する。文字では微妙なニュアンスが伝わりにくいと思うときも、何度もメールを書き直すより、ダイレクトに電話して説明する方が相手の反応も分かってお互いに納得できたりします。決定や確認を急ぐ際もメールより電話の方が確実です。逆に、読めば分かるとか、急を要さず電話するまでもない用件（「わかりました」「理解しました」といった返事だけのやり取りなど）はメールで済ませましょう。相手の時間を無駄に奪わない、そして自分の時間も無駄にせず確実に伝えるには、メールがよいのか、電話がよいのかをその時々状況に合わせて判断することが重要です。携帯電話で仕事のやり取りをする場合、留守番電話のメッセージも伝達手段として有効活用しましょう。メッセージを残す際に伝えるべきポイントは、用件の詳細より用件の重要度です。留守電で用件が伝わる内容であればメッセージを残し、「返信は不要です」と言い添える。メールでも伝わる内容であれば「詳細はメールでお送りします」とメールの伝達に切り替える。電話でない不都合な要件は「(至急)返信ください」とメッセージを残し、相手の返信を待つか「後ほどかけ直します」と再度連絡する。メールでも電話でも、コンタクトを取る以上は、二度手間にならないような配慮が必要です。

## ＜メールか、電話か、判断のポイント＞

- メールで長くなりそうなら、要点を整理して電話で連絡を！
- 電話とメールの併用あり！  
電話してメール or メールして電話
- 決定や確認を急ぐ時はメールより電話が確実！

※お互いの時間を奪わない配慮を

## メール道：【感情的になったときの対処法】

メールは伝達のための一手段です。特にビジネスメールでは報告、連絡、確認のために活用することで、業務がよりスピーディーに効率化できます。しかし、メールの内容によっては後々、トラブルの元になるケースもあります。例えば、感情的になって書いたメール。気分を害する要因がなにかしらあったにせよ、怒りの感情をそのままメールに反映させてしまうのはよくありません。自分で感情をコントロールできないまま書き殴った内容は、後で読み返すと「なぜ、自分はここまでカッカしていたのだろう・・・」と、本人でさえその理由やそのときの感情を思い出せなくなっていることもあります。自分を見失った状態で送ったメールは、当人はうっぶんが晴らせたとしても、それを受け取る方は傷付いたり、嫌な思いをします。イライラしたり、ムカッとしたりする感情を抱くことは誰にでもありますし、仕事のやり取りでそうした感情に陥ることも少なくありません。しかし、そんな負の感情を自覚したときほど、ひと呼吸おいて冷静さを取り戻してから対処することが、仕事をしていくうえでの「知恵」ではないでしょうか。メールのやり取りでカチン

## ＜冷静なメール対応に役立つ言い返し＞

- × それ、違います（間違ってます）。
- △は□の間違いいではありませんか？  
→ 決めつけずに問いかけて確認
- × さっきのメール、意味が分かりません。
- 先ほどのメールにあった△△は、□□という理解でよろしいですか？  
→ 別の表現に書き換えて確認

ときたときの対処法のひとつとして、テキストファイル（メモ帳）に相手に対する反論や意見など思いのたけを一度全部、書き出してみることをおすすめします。その後、少しパソコンの前を離れ、他の作業をして気持ちを切り替えてから、もう一度、今度は相手の視点で文章を読み返してみよう。感情丸出しで筋が通っていなかったり、不適切な表現になっていたり、誤解を招くような記述があれば削除し、文章を整えてからメールに清書して送信します。一見、手間がかかるように感じるかもしれませんが、怒りや

嫌な気持ちをすべて書き出すことで、クールダウンして自分の気持ちを客観視できるようになります。負の感情をぶつけ合うメールのやり取りに貴重な時間を費やすのではなく、冷静かつ建設的な対応を心掛けたいものですね。

## メール道：【意味を勘違いしやすい慣用句に要注意！】

間違えたまま使っていることに気付く機会を与えてくれるのが、文化庁が実施している「国語に関する世論調査」です。そこで今回は、いくつかの慣用句の本来の意味について改めて確認してみましょう。「世の中には奇人な人がいるものだ」というときの「奇特」。文字の印象から「奇妙で珍しいこと」という意味と思込んでいませんか？「奇特」の本来の意味は「言行や心掛けが優れていて、褒めるに値する様」です。「彼は奇人な人ですね」は変わり者という意味ではなく、感心な行いをする優れた人という意味です。こうした感覚的な思い込みをしていた期間が長いほど、本来の意味に気付いたときにきまりが悪いものです。自分が理解している意味と本来の意味が違うのでは？と疑問に感じた時点で、すぐに辞書で調べる習慣を身に付けましょう。「彼のスピーチは心の琴線に触れる内容でした」というときの「琴線に触れる」。これは、物事に感動・共鳴しやすい心の奥深くにある感情を「琴の糸」に例えた言葉です。じわじわ、しみじみと心に響く様を表し、近い意味合いの言葉としては「心に染み入る」「感じ入る」が挙げられます。良いものに触れ、感銘を受ける状態を表すときに用いますが、相手の怒りを買ってしまうという反対の意味でとらえている人も多いので気を付けましょう。相手の言動で不愉快になる気持ちを表す言葉には「気に障る」「気分を害する」「角が立つ」などが挙げられます。その他の慣用句に「愛嬌を振りまく」「そうは問屋が卸さない」などもあります。「愛嬌」は、その人の身に備わっていて、言動や顔つきに自然と現れる親しみやすいかわいらしさのこと。対して「愛想」は、人に良い感じを与えるために示す態度や動作のこと。「振りまく」に呼応するのは「愛想」ではなく「愛嬌」です。また問屋（とんや）とは、卸売商のこと。卸売りを専門にするのが問屋ですから「そうは問屋が卸さない」という例えが生まれました。そう考えると「そうは問屋が許さない」は間違いと分かりますね。

## ＜間違いやすい慣用句＞

- 彼は奇人な人ですね。  
→ 感心な行いをする優れた人のこと
- 彼のスピーチは琴線に触れる内容でした。  
→ しみじみと心に響く様
- 愛嬌を振りまく
- × 愛想を振りまく
- そうは問屋が卸さない
- × そうは問屋が許さない

## メール道：【否定で始まる後ろ向き表現に要注意！】

「でも、私は聞いていませんのでそれはできません」「だって、現状では無理に決まっているじゃないですか」のように「でも」「だって」の接続詞で始まる返答は多いです。依頼や確認、打診の問いかけに対して、否定の「でも」「だって」で返答されるのは気分のよいものではありません。最初に否定してしまうと、そこから前へ物事が進まなくなります。反論も書き方次第で受け入れてもらうことができるので、ここは工夫のしどころです。最初から拒絶するのではなく「未経験ですが、やり方を教えていただけますか？」「すぐに対応しますので、いつまでに必要か教えてください」と、どうすればできるのか、次のアクションにつなげましょう。「できません」「してません」「分かりません」という返答では何の解決にもなりません。「だって、現状では無理に決まっているじゃないですか」と最初から諦めるのではなく「現状では難しいですが、すれば対応可能です」と、別の手段や対応策を提案するのもひとつです。日程の延期とか、人員の増強とか、外注に出すとか、「できない」を「できる」に変える方法を考えましょう。「だから、言ったじゃないですか」「だから、やめとけばよかったのに」と、過去にさかのぼって批判されるとカチンと頭にくることもあるでしょう。結果の良し悪しを後から批評・批判する「後出しジャンケン」のような物言いをする人ほど、口は出しても手は貸さない、自分は汗をかかず他人事というケースは少なくありません。思わしくない結果になっても「では、しまししょう」と、「これから」すべきことを考え、行動を促す。「何が問題だったかを調べ、同じ過ちを繰り返さないように対策をとりましょう」と、次の行動に生かす姿勢を言葉で示す。起きてしまったことをとやかく言う前に目的やゴールに向けて今、何をすべきか、どのように対処して軌道修正するかを考えることが大切です。ピンチをチャンスと受け止め、前を向ける人、手を貸す人になりたいものですね。

## ＜後ろ向きな表現をこのように変換！＞

- × でも、私は聞いていませんので、できません。
  - 未経験ですが、やり方を教えていただけますか？
  - × だって、無理に決まっているじゃないですか。
  - 現状では難しいですが、□□すれば対応可能です。
- ※「どうすれば解決できるか」を考えましょう！

## 編集後記

明けましておめでとうございます。今年の十二支はとり（酉）ですが、酉年は商売繁盛につながる年と言われています。「酉」の意味に、果実が限界まで熟した状態とあり、また「取り込む」の「取り」と同じ音という事で、商売によって運氣やお客を「取り」込むという言葉の縁起担ぎからも来ているのです。お正月などに「酉の市」という商売繁盛を願うお祭りもあるそうです。酉年は、良い運氣を取り込み、より実りの多い、成果の得られる1年にしていきたいですね。（上岡・林田）

